

杉並三田会
獅子の会（44年卒）
連絡先 桑島 文彦

平成29年11月15日（日）獅子の会「歴史人物探求シリーズ」「西郷どん②」を実施

NHK大河ドラマの先取り勉強会「西郷どん②」を8月に引き続き 香取さんの講師で高井戸区民センターにて実施した。

今回は「禁門の変」以降である。欠席者が多かったので概要を紹介する。

「禁門の変」では 西郷は 薩摩は皇居守護に専念すべしと訴え 京都に押し寄せる長州勢を撃退した。そして長州藩追討の朝命いわゆる「**第一次長州征伐**」には 勝海舟と会い 勝の意見を参考に長州に対しては強硬策ではなく緩和策で望むことで幕府側を纏め 長州と折衝決着させた。その後西郷は坂本龍馬との話で 長州が欲している武器・艦船の購入を薩摩名義で行うことを承諾 さらに長州から兵糧米を購入するなど薩長和睦の実績づくりをした。これが薩長同盟に繋がり 「**第二次長州征伐**」も出兵を断り さらに土佐藩と倒幕のための薩土盟約も成立させ 「**大政奉還・王政復古**」へとつながった。

翌年 京都にて旧幕軍と薩長の守備隊が衝突し 「**鳥羽・伏見の戦い**」が始まった。（「**戊辰戦争**」開始） 西郷は東海道先鋒軍司令官に任じられ要衝箱根を占領した。勝海舟と江戸城明け渡しについて交渉し 「**江戸城無血開城**」を実現した。

しかし抗戦派の旧幕臣たちは 上野にこもり「**彰義隊**」を結成 西郷はこれを破った。

西郷はこの頃から健康を害し 一旦鹿児島に帰った。

奥羽諸藩に北越諸藩を加えた「**奥羽越列藩同盟**」が結成され 政府軍と対決した。西郷は北陸道軍の応援を要請されこれに対応した。一方東北では 戊辰戦争の中でも激戦地で千人を超える死傷者があった「**白河を戦場とする白河口の戦い**」、会津鶴ヶ城を舞台にした「**会津戦争**」で政府軍は勝利した。この仙台藩、会津藩が降伏すると 北陸庄内藩も降伏した。

この年新政府が「**明治元年**」と改元した。

翌年の明治2年 最後の拠点「**箱館五稜郭**」を陥落させ 戊辰戦争は終結した。西郷は応援に箱館に向かったが すでに五稜郭は開城 戦争は終わっていた。

西郷はこの頃 自らが率い戊辰参戦の功があった下級武士の不満解消に気を使っていた。

戦後 鹿児島に戻っていたが 新政府からの要請で政治改革の為に明治4年上京することになった。新政府では 御親兵（後の近衛兵）の編成、石巻と小倉に鎮台を設置し 廃藩置県を実施した。同年 三条・西郷らに留守内閣をまかせ 「**特命全権大使・岩倉具視ら107名の大使節団**」が米国、欧州に出発した。（1年9ヶ月に及ぶ）

明治6年 対朝鮮問題で政府内で対立した。李朝政府が 日本の国書を拒絶し、使節を侮辱し、居留民の安全が脅かされている。との報告を受け 板垣退助が武力による修好条約締結（「**征韓論**」）を主張し 西郷は武力を不可として自分が全権大使になる（「**遣韓大使論**」）と主張し対立した。一旦西郷派遣で決定したものの 岩倉具視の「**内治優先論**」により無期延期となった。これで西郷は辞職した。一緒に600名余が辞職したとされる。（明治6年政変）

西郷の下野に同調した軍人らが相次いで帰県し 県下は無職の血気多き壮年者がのさばり それに影響された若者で溢れた。そこでこれを指導し、統御しなければならないと 有志者が西郷にはかり「私学校」が作られた。その私学校が県下最大の勢力になり県政をも牛耳るようになった。

明治9年廃刀令が出ると熊本、福岡、萩など各地で氏族の乱が起きた。政府は鹿児島でも乱が起きるのを警戒した。

鹿児島では 明治10年私学校本校で大評議が開かれ 政府問罪のため大群を率いて状況することが決まり 募兵、新兵教練の後 大隊編制が行われた。西郷による閲兵式が行われ西郷も鹿児島を出発し熊本に向かった。「今般政府に尋問の筋これあり」とその決意を述べている。

「西南戦争」開始である。熊本城とその近辺で始まり 最大の激戦地 「田原坂の戦い」(現在の熊本市)など 熊本、宮崎、大分、鹿児島が戦場となった。戦力は政府軍6万に対し薩摩軍3万、死者は両軍合わせて14,000人に達した。薩摩軍は武器が旧式で 弾薬、食料の不足も大きく影響した。最後の戦いは鹿児島県の城山で 西郷は銃弾を受け負傷した後切腹。享年51歳。賊軍の将として遇されたが 明治22年西郷の人柄を愛した明治天皇の意向もあり大赦で赦された。

幕末から維新の激動の時代は ペリー来航から西郷の死までわずか20年に過ぎない。この短い期間にさまざまな方向を持ったエネルギーが激突した。そこに生じた混乱は想像を絶するものがあつたに違いない。現実への妥協や安易な事なかれ主義が西郷にはない。この人物には私心というものがない。これは天性であつたようだ。

二回に亘つての勉強会 明治維新も 幕府、会津、長州、薩摩、土佐、そして今回の西郷というように 視点が変わるとまた新しい出会いがある。来年の大河ドラマも楽しみである。今回の勉強会は 獅子の会メンバー8人とゲスト7人の合計15名の参加となった。